

20日 金曜

コリント I

9:19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隸となりました。

9:20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようにになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。

9:21 律法を持たない人々に対しては、・・私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、・・律法を持たない者のようにになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。

9:22 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。

9:23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをともに受ける者となるためなのです。

9:24 競技場で走る人々は、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。

9:25 また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

9:26 ですから、私は決勝点がどこかわからぬような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。

9:27 私は自分のからだを打ちたいて従わせ



Bible Reference
聖書の記述

ます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。

これまで述べて来たことをまとめるようにして、パウロは自分の生き方を宣言しています。相手がどんな人であれ、その人の立場に自分の身を置くということです。割礼のある人とない人、結婚している人としていない人、奴隸と自由人、偶像の肉を食べる人とそれを気にする人、フルタイムの使徒とそれを支える教会員、権利行使する人としない人などなど、同じクリスチヤンといってもあらゆる立場・状態の人がいます。パウロはここで全てのクリスチヤンに共通する大切な生き方を教えているのです。

そしてそれは伝道にも言えることです。相手の心を思いやり、その立場に立たなければ、愛の主を伝えることはできませんし、十字架のメッセージから愛を伝えることはできません。

しかしここで忘れてはならない大切なことは、ノンクリスチヤンや世の中に妥協して、自分の保身を図るのは全く違うということです。自分はむしろ奴隸のようになることなのです。ノンクリスチヤンに妥協して楽になることではありません。むしろ「自分のからだを打ちたいて従わせます。」というように、苦しい努力が求められるのです。

人生にあって私たちは楽にしていれば良いということは少なく、むしろリスクを負って挑戦して勝利を勝ち取って行かなければならないことが多いのです。ならばパウロのように「朽ちない冠を受けるために」、働きの「失格者」とならないように、自分を「従わせて」行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

